

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスかすみくらぶ			
○保護者評価実施期間	2025年11月26日 ~ 2025年12月10日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数)	23名
○従業者評価実施期間	2025年11月26日 ~ 2025年12月10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月17日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ストレングス的支援を行いエンパワーメントにつながっている。	本人の好きな物事、得意なことからもスマールスラップアングを図る。	本人の好きな物事、得意なことから幅を広げていく。
2	利用者同士の関わりの時間を尊重することで自然な5領域の支援ができる。	利用者同士の関わりの時間を増やす。	室内での余暇活動や外出活動でも利用者同士の意思を尊重している。
3	外出プログラムが豊富。	利用者の気づきになるような場所への外出をしている。	利用者に日々のやりたいこと、行きたい場所を聞いて目的をもった外出活動をおこなっている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個人的な話をする場合や気持ちを落ち着かせる為の隔離されたスペースの確保ができない。	事業所の構造がワンフロアの為個室の空間がない。	個別的なスペースを確保していく。 外部の施設等を利用し、個別に話ができるよう配慮していく。
2	SNS等を用いた外部への広報活動ができていない。	定期的に更新をしているが、更新内容が既存顧客向けに固定化されてしまっている。	活動内容の紹介をしているが、一部であり伝えきれていない部分がある。
3			

		公表 保護者等からの事業所評価の集計結果							
事業所名		放課後等デイサービスかすみくらぶ							
		公表日 2025年 12月 19日							
		利用児童数			2025年 12月 19日			回収数 23名	
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	はい 18	どちらともいえない 1	いいえ	わからない 4	ご意見	引き続き活動しやすいスペースを確保していく。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	はい 16	どちらともいえない 1	いいえ	わからない 6	ご意見	職員配置数及び安全計画HPで公表する。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	はい 20	どちらともいえない	いいえ	わからない 3	ご意見	継続していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	はい 20	どちらともいえない 1	いいえ	わからない 2	ご意見	衛生管理等に配慮し今後も継続した空間作りをおこなっていく。	
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	はい 21	どちらともいえない 1	いいえ	わからない 1	ご意見	専門職として自覚を持って支援していく。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	はい 19	どちらともいえない	いいえ	わからない 4	ご意見	定期的に具体的な支援内容を掲示する。	
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	はい 22	どちらともいえない 1	いいえ	わからない	ご意見		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	はい 22	どちらともいえない 1	いいえ	わからない	ご意見		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	はい 22	どちらともいえない 1	いいえ	わからない	ご意見		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	はい 20	どちらともいえない 1	いいえ	わからない 2	ご意見		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	はい 14	どちらともいえない 2	いいえ 3	わからない 4	ご意見	交流する機会は設けているので保護者様への周知を徹底していく。	
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	はい 22	どちらともいえない	いいえ	わからない 1	ご意見	わかりやすい説明を意識していく。	
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	はい 22	どちらともいえない 1	いいえ	わからない	ご意見		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	はい 9	どちらともいえない 4	いいえ 5	わからない 5	ご意見	保護者様のニーズを把握し適切な研修会や情報提供の機会を設けていく。	
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	はい 22	どちらともいえない 1	いいえ	わからない	ご意見		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	はい 21	どちらともいえない 2	いいえ	わからない	ご意見		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	はい 22	どちらともいえない 1	いいえ	わからない	ご意見		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	はい 9	どちらともいえない 3	いいえ 6	わからない 5	ご意見	保護者様のニーズを把握し適切なイベントを催していく。	

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	21			2		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	23					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	23					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18	1		4	わからない。	HPで各マニュアルを公表する。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18	1		4	わからない。	訓練時の様子をHP等で公開していく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	2		1	わからない。	HPで各マニュアルを公表する。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	21	1		1		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	23					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	23					
	29	事業所の支援に満足していますか。	23					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスかすみくらぶ				公表日	2025年 12月 19日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		利用児童の特性や活動内容に応じて、静と動の空間を分けるなど環境設定を行なっている。	今後も利用児童の増減や特性の変化に応じ、柔軟な空間配置を検討していく。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		児童の状態や活動内容に応じて職員配置を調整している。	より安定した支援提供のため、職員間の連携強化を継続する。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		視覚的配慮や動線の工夫を行い、分かりやすい環境づくりに勤めている。	さらなるバリアフリー化について検討を進める。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		清掃・整理整頓を日常的に行い、安心して過ごせる環境を維持している。	定期的な環境点検を行い、より快適な空間づくりを目指す。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		個別対応が必要な場合は別室等を活用している。	今後も個々の状況に応じた環境調整を継続する。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		職員間で目標や振り返りを共有し、PDCAを意識した支援を行なっている。	記録や振り返りの質の向上を図る。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者アンケート等を活用し、意見を業務改善に反映している。	意見収集の機会をさらに充実させる	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		職員会議等で意見交換を行い、支援の質向上に繋げている。	意見共有の仕組みをより体系化する。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5		第三者評価の結果を参考に改善に努めている。	評価内容の周知と活用を継続する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		外部研修・内部研修への参加機会を確保している。	研修内容の共有・実践への反映を強化する。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		支援プログラムを作成し、事業所内で共有している。	定期的な見直しを継続する。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		アセスメントを基に個別支援計画を作成している。	より多角的な視点での分析を心がける。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		職員間で情報共有を行い、子どもの最善の利益を考慮している。	共通理解をさらに深める。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		計画内容を職員間で共有し、統一した支援を行なっている。	支援内容の振り返りを継続する。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		日々の行動観察を通して状況把握を行なっている。	記録の精度向上を図る。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ガイドラインに基づいた支援計画を作成している。	支援内容の具体性を高める。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		活動プログラムを職員間で検討して決定している。	多様な活動の提供を検討する。	

援の提供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	活動プログラムが固定化しないよう、子どもの興味や状況に応じて内容を工夫している。	今後も多様な活動を取り入れ、柔軟なプログラム提供を継続する。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	個別活動と集団活動を適切に組み合わせ、計画に基づいた支援を行なっている。	活動内容の幅を広げ、より個別性の高い支援を検討する。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	支援前に職員間で打ち合わせを行い、役割分担を明確にしている。	チーム連携をさらに強化し、情報共有の質を高める。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	支援後に振り返りを行い、支援内容の共有を行なっている。	振り返り内容をより具体的に次回支援へ反映していく。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	日々の支援内容を記録し、業務改善に活用している。	記録の質や統一性の向上を図る。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	定期的にモニタリングを行い、支援計画の見直しを実施している。	見直し時期や方法の明確化を進める。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5	ガイドラインに示されている基本活動を意識した支援を行なっている。	活動内容の理解を深め、支援の質向上につなげる。
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	子どもが自ら選択できる場面を設け、自己決定を尊重している。	自己選択の機会をさらに増やす工夫を行う。
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	担当者会議に参加し、子どもの状況把握に努めている。	関係機関との情報共有をより密にする。
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	医療・保健・学校等の関係機関と連携を図っている。	連携体制のさらなる強化を行う。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	学校との情報共有を行い、支援に活かしている。	連絡方法整理と継続的な連携を行う。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	併行利用先との連携を行い、支援内容の共有を図っている。	より円滑な情報交換を目指す。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	移行時には必要な情報を提供し、支援の継続性に配慮している。	引き続き内容の整理を進める。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	地域の相談支援機関と連携し、必要に応じ助言を受けている。	連携機会の拡充を検討する。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	地域活動への参加や交流の機会を設けている。	交流機会をさらに増やす工夫を行う。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	協議会等に参加し、地域支援体制の把握に努めている。	参加内容を事業所内で共有する。
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	日頃から保護者と情報共有を行い、共通理解を図っている。	情報提供の方法をさらに工夫する。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	家族支援の視点を持ち、相談対応を行なっている。	家族支援に関する情報提供の充実を図る。
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	運営規程や支援内容について丁寧に説明している。	より分かりやすい説明資料の作成を検討する。
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	支援計画作成時に保護者の意向を確認している。	意向確認の機会を継続的に設ける。
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	計画内容を説明し、同意を得た上で支援を行なっている。	説明内容の充実を図る。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	相談内容に応じて適切な対応や助言を行なっている。	相談対応の記録と共有を強化する。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	保護者同士の交流の場づくりを支援している。	交流の機会を増やす工夫を行う。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	苦情や意見に対する対応体制を整備している。	対応内容の周知を継続する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	HPやSNS等を活用し情報発信を行なっている。	発信内容の充実を図る。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	個人情報の取り扱いに十分配慮している。	職員への周知徹底を継続する。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	意思疎通に配慮し、分かりやすい伝達を心がけている。	支援方法の工夫を重ねる。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	地域に開かれた事業所運営を意識している。	地域交流の機会を検討する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	各種マニュアルを整備し、訓練を実施している。	定期的な見直しを行う。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	BCPを策定し、非常時対応に備えている。	訓練内容の充実を図る。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	服薬や健康状態の確認を事前に行なっている。	確認手順の徹底を継続する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	食物アレルギーに配慮し、医師の指示に基づき対応している。	情報共有体制の継続を行う。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	安全管理体制を整え、安心できる支援を行なっている。	安全意識の向上を図る。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	安全確保に関する取り組みを保護者に周知している。	周知方法の工夫を行う。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	ヒヤリハット事例を共有し再発防止に努めている。	事例共有の継続と分析を行う。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	虐待防止のための研修を実施している。	研修内容の定期的な見直しを行う。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行なうかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	身体拘束に関する方針を明確にし、計画に記載している。	職員への周知と理解の深化を図る。